

PORTS
OF
OSAKA
PREFECTURE



第36回海の写真コンクール 大阪府知事賞・大阪府港湾協会賞
[堺・夜のコンビナート：酒井 賢治]

TOPICS

大阪府営港湾セミナー(東京)開催	1
大阪湾港湾の基本構想の策定について	1
タンザニア港湾・産業交流ミッション2014	3
「港湾のまちいずみおおつ」を世界にPR!!	4
阪南4区(貝塚市)北防波堤で安全パトロールを実施しています!	5
堺泉北港及び阪南港テロ対策総合訓練を実施しました	6
堺第7-3区共生の森づくり活動報告	8
大阪湾の環境	9

EVENT

港湾施設見学会を開催	10
和歌山県広川町へ先進事例視察を実施	10
第41回堺港まつり開催	11
堺泉北港地元港湾振興会で合同視察を実施	11
「阪南港みなとふれあい広場」イベント開催	12

PORT NEWS

WELCOME!世界からのお客様	13
ようこそ大阪府営港湾へ～初入港のご紹介～	13

INFORMATION

在阪国家機関等に対する要望活動	14
-----------------	----

大阪府の
みなと

2015.1
No.109

PORTS of OSAKA PREFECTURE

No.109 大阪府港湾協会

C·O·N·T·E·N·T·S

TOPICS

大阪府営港湾セミナー(東京)開催	1
大阪湾港湾の基本構想の策定について	1
タンザニア港湾・産業交流ミッション2014	3
「港湾のまち・いずみおおつ」を世界にPR!!	4
阪南4区(貝塚市)北防波堤で安全パトロールを実施しています!	5
堺泉北港及び阪南港テロ対策総合訓練を実施しました	6
堺第7-3区共生の森づくり活動報告	8
大阪湾の環境	9

EVENT

港湾施設見学会を開催	10
和歌山県広川町へ先進事例視察を実施	10
第41回堺 ^堺 港まつり開催	11
堺泉北港地元港湾振興会で合同視察を実施	11
「阪南港みなとふれあい広場」イベント開催	12

PORT NEWS

WELCOME!世界からのお客様	13
ようこそ大阪府営港湾へ ～初入港のご紹介～	13

INFORMATION

在阪国家機関等に対する要望活動	14
-----------------------	----

T O P I C S

大阪府営港湾セミナー(東京)開催

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

大阪府営港湾の特徴やメリット、最新の情報を紹介・PRし、首都圏の企業の利用促進を図るために、大阪府港湾協会及び堺泉北港港湾振興連絡協議会・阪南港港湾振興連絡協議会とともに、東京において大阪府営港湾セミナーを開催しました。

セミナーでは、堺泉北港における内航RORO・フェリー定期航路や中古車輸出拠点機能の紹介と阪南港における事業用地について紹介を行いました。また、今回初めて、大阪市港湾局による大阪港の紹介を行いました。

セミナー翌日にはポートセールスを実施し、船社・荷主等13社を訪問しました。

開催日 平成26年11月27日(木)

開催場所 ベルサール八重洲

参加人数 124名

- 内容
- 開会挨拶 大阪府港湾局 局長 井上 博睦
 - 府営港湾の紹介 大阪府港湾局 次長 中田 憲正
 - 阪南港における保管施設用地・製造業用地の紹介
大阪府港湾局経営振興課 課長補佐 神田 昌彦
 - 事業紹介 「大王海運(株)の主な取扱貨物」～事例のご紹介～
大王海運(株) 定期船事業部 営業部 営業一課 榎本 光 氏
 - 大阪港の紹介 大阪市港湾局 振興担当課長 川井田 浩 氏
 - 講演 「『荷主側からのモーダルシフト推進』～船会社側からのモーダルシフト提案～」
日本ロジスティクスシステム協会 客員研究員
井本商運株式会社 営業部長 荻原 克郎 氏

主催 大阪府港湾局 大阪府港湾協会 堺泉北港港湾振興連絡協議会 阪南港港湾振興連絡協議会

協力 大阪市港湾局 大王海運(株) 八興運輸(株) 堺泉北埠頭(株)

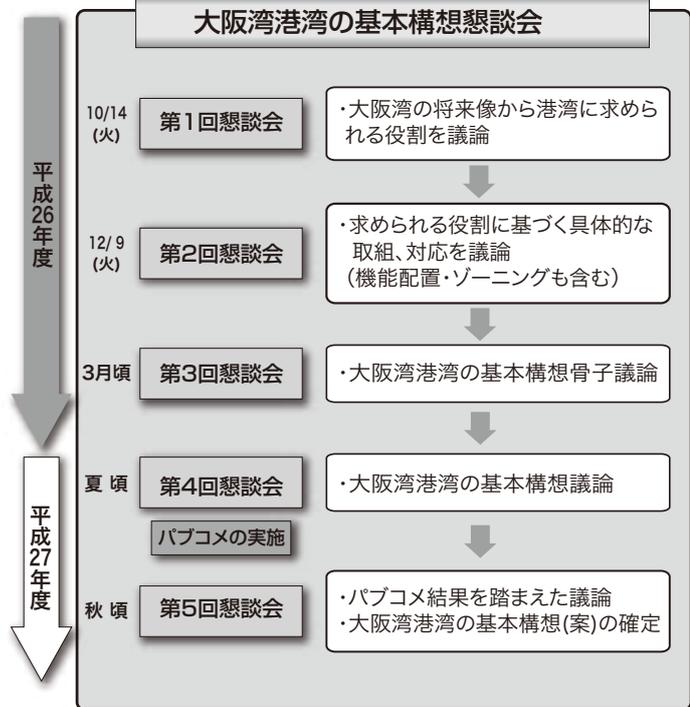


(1) 大阪湾港湾の基本構想懇談会

平成26年10月14日、国土交通省近畿地方整備局は、第1回大阪湾港湾の基本構想懇談会を開催し、大阪湾諸港に求められる役割や方向性、将来像などについて検討、議論を開始しました。

懇談会は、大阪湾諸港背後の産業、物流、防災などについて港湾のあるべき姿を想定し、今後10年間を見通した大阪湾港湾の基本構想策定を目指します。懇談会は、黒田神戸大学名誉教授をはじめ竹林神戸大学大学院教授、赤井大阪大学大学院教授などの学識経験者、関西経済連合会、阪神国際港湾(株)、国土交通省、4港湾管理者(大阪府、兵庫県、大阪市、神戸市)などの参画のもと大阪湾港湾の基本構想策定に向け議論をしていきます。





学識経験者	赤井 伸郎	大阪大学大学院	教授
	今西 珠美	流通科学大学	教授
	上村 多恵子	一般社団法人京都経済同友会	理事
	小野 憲司	京都大学防災研究所	教授
	黒田 勝彦	神戸大学	名誉教授
	竹林 幹雄	神戸大学大学院	教授
	西田 修三	大阪大学大学院	教授
	西田 純二	京都大学経営管理大学院経営研究センター	特命教授
		株式会社社会システム総合研究所	代表取締役
	松島 格也	京都大学大学院	准教授
	森 隆行	流通科学大学	教授
民間・団体	阿部 孝次	公益社団法人関西経済連合会	理事
	豊田 巖	阪神国際港湾株式会社	専務執行役員
	池田 秀文	大阪湾広域臨海環境整備センター	常務理事
港湾管理者	井上 博睦	大阪府	港湾局長
	田中 稔	兵庫県	県土整備部長
	徳平 隆之	大阪市	港湾局長
	吉井 真	神戸市	みなと総局長
国土交通省	前川 一郎	国土交通省近畿運輸局	海事振興部長
	村松 智司	国土交通省神戸運輸監理部	海事振興部長
	池田 薫	国土交通省近畿地方整備局	副局長
	成瀬 英治	国土交通省近畿地方整備局	港湾空港部長
	佐藤 敬	国土交通省近畿地方整備局	神戸港湾事務所長
	中本 隆	国土交通省近畿地方整備局	大阪港湾・空港整備事務所長
事務局		国土交通省近畿地方整備局	港湾空港部

平成17年9月に策定された「大阪湾港湾の基本構想※1～関西シリコンベイ構想～」の前後から、大阪湾ベイエリアは「パネルベイ」と評され活況を呈したものの、米国のサブプライム問題に端を発した未曾有の世界経済危機や円高による製造拠点の流出、東日本大震災の発生や、それに伴うエネルギー源の転換、人口減少、少子・高齢化など、社会・経済情勢は大きく変化を続けております。このような中、平成26年8月6日「第26回大阪湾港湾連携推進協議会※2」を開催し、今後、概ね10年先の将来を見通した「大阪湾港湾の基本構想」を策定していくことが確認されました。今般、幅広く専門的な知見を集めるため、関係分野の有識者らで構成する「大阪湾港湾の基本構想懇談会※3」を設置し、大阪湾の将来のあるべき姿を想定しつつ、港湾に求められる役割や、具体的な施策等を、議論していく予定です。

平成26年12月9日には、第2回大阪湾港湾の基本構想懇談会が開催され、①大阪湾港湾に求められる役割と方向性のとりまとめについて、②大阪湾港湾に必要な機能と、機能に応じて継続的・具体的に推進すべき取組みについて議論が行われました。

※1. 大阪湾港湾の基本構想とは

大阪湾港湾の背後圏をとらまえ、「産業」や「物流」「防災」「環境」などについて、大阪湾の将来のあるべき姿を想定し、港湾に求められる役割や、具体的な施策等とりまとめ、今後の大阪湾諸港の港湾計画改訂時の指針となるものです。

※2. 大阪湾港湾連携推進協議会(略:湾連協)とは

大阪湾における港湾の開発、利用及び保全に関する重要事項について連絡調整を図り、港湾相互の広域的な連携推進に取り組むことにより、広域的且つ総合的な見地から、大阪湾各港の開発、利用及び保全に資することを目的として、昭和51年に発足した協議会です。過去には、大阪湾港湾の基本構想、フェニックス計画、阪神港一開港化、入港料の低減などを議論しています。構成は、港湾管理者、近畿地方整備局となっています。

※3. 大阪湾港湾の基本構想懇談会とは

大阪湾港湾連携推進協議会から求められて設置するもので、学識経験者を含めた関係者が一堂に会し、「大阪湾港湾の基本構想」について議論する場。事務局は近畿地方整備局。

(2) 堺泉北港・阪南港の港湾計画改訂にむけて

大阪府では、様々なニーズや社会経済情勢の変化に対応した港湾とするために、堺泉北港、阪南港における港湾計画の見直しを行うこととしています。検討を進めるにあたっては、大阪湾港湾の基本構想懇談会で示される大阪湾港湾の基本構想案を指針とし、堺泉北港、阪南港に求められる役割、必要となる機能を港湾計画に反映していく予定です。

また、府営港湾周辺に立地する事業所の事業活動及び府営港湾利用に関するご要望等を的確に把握し、土地需要や物流効率化等府営港湾ご利用の皆様のニーズを反映していきたいと考えています。

港湾計画の見直しにおいては、取扱貨物量および船舶隻数推計、土地利用計画等の検討を行う必要があり、堺泉北港、阪南港をはじめとした府営港湾をご利用の皆様のご意見をいただく予定(アンケート調査、ヒアリング等)ですので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

大阪府港湾局と堺泉北港湾振興連絡協議会では、地元企業等のメンバーで構成するミッション団(団長:井上博睦港湾局長ほか6名)を結成し、平成26年11月9日(日)から15日(土)の日程で、タンザニアのダルエスサラームとザンジバルを訪問しました。



TPA担当官と記念品交換

東アフリカに位置するタンザニアは、2000年代に入ってから順調に経済成長を続けています。内陸国5か国(ウガンダ、ルワンダ、ブルンジ、ザンビア、マラウイ)と国境を接しており、これらのうちブルンジとザンビアにとって、タンザニアは主要な物流経路となっています。堺泉北港では中古自動車輸出が好調

で、全国3位(H26年1月～11月)の取扱量となっていますが、日本と同じ左側通行を採用する同国向けの輸出量増加に期待が高まっています。

乗り継ぎを含めると20時間近い移動を行ったミッション団は、ダルエスサラームに10日夕刻到着しました。翌日、まずは日本大使館を訪問。松永公使を表敬しました。公使は当地では、"Made In Japan"ではなく"Used In Japan"が注目されている



ダルエスサラーム港全景



ダルエスサラーム港中古車ヤード

とし、中古自動車をはじめ中古パソコンや中古自転車といった日本の厳しい消費者に受け入れられた高品質な中古品を、当地で安く販売することがビジネスのカギの一つだと語りました。午後からはタンザニア港湾公社(TPA)を訪問し、担当官から港の概略について説明を受け、ダルエスサラーム港の中古車ヤードなどを視察しました。

12日午前には、産業貿易省の事務次官を表敬訪問し、二国間の貿易促進を確認しました。午後からは、現地の自動車部品修理工場を訪問。早速、商談を行う参加者の姿も見られました。その後、大阪市に本社を置く日本ポリグル社の給水サイトを視察しました。同社は、独自に開発した凝集剤を使った水処理ビジネスを途上国において展開し、タンザニアにおいても二か所の給水所で農村の人たちに安全な水を安価で供給しています。

13日は、インド洋に浮かぶ島嶼であるザンジバルに移動し、同港湾公社と主要港であるザンジバル港を訪問しました。

アフリカ本土のタンガニーカと共にタンザニア連合共和国を構成するザンジバルは、



ザンジバル港のコンテナ荷役

強い自治権を持ち港湾も対岸のダルエスサラーム港とは別の公社によって運営されています。参加者からは、バースの規模や自動車船の寄港状況などについて質問がありました。

翌14日、タンザニアにおける三日間の活動を終えたミッション団は、ダルエスサラーム国際空港より帰国の途につきました。今回の訪問に当たっては日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部・同ナイロビ事務所をはじめ多数の方々に多大なご協力を頂きました。この場を借りてお礼を申し上げます。

日程表	
日付	主な内容
11月9日(日)	出国 関西国際空港
10日(月)	～ドーハ国際空港(カタル)乗り継ぎ ～ダルエスサラーム国際空港
11日(火)	在タンザニア日本国大使館:松永公使表敬 JETROナイロビ事務所員によるブリーフィング タンザニア港湾公社訪問・ダルエスサラーム港視察 JICAタンザニア事務所訪問・ブリーフィング
12日(水)	タンザニア産業貿易省:事務次官表敬 AutoZone社訪問(現地自動車部品修理工場) 日本ポリグル社(在阪企業)キサラウエサイト視察
13日(木)	ザンジバル港湾公社訪問・ザンジバル港視察
14日(金)	帰国:ダルエスサラーム国際空港 ～ドーハ国際空港(カタル)乗り継ぎ
15日(土)	～関西国際空港

【国際拠点港湾・堺泉北港】

泉大津市の臨海部などで構成される「堺泉北港」は、紀貫之の土佐日記に「小津の泊」と詠われるなど古くから栄え、現在では国際拠点港湾として整備されています。また、都市高速道路に直結し、関西国際空港や大阪都心部から30分以内という抜群のアクセスを誇るなど陸・海・空の国際貿易拠点として活躍しています。

【港湾トップセールスとは】

平成26年10月、泉大津市は、市長が団長となり泉大津市議会・大阪府港湾局・港湾事業者の協力により、「港湾トップセールス団」を編成。市長自らが先頭に立ち、経済発展の著しいアセアン諸国を訪問し、「国際拠点港湾・堺泉北港」と「泉大津市」の魅力を紹介することで、堺泉北港の利活用を促進し、市域全体の活性化に繋げることを目的に6日間の日程で実施しました。



泉大津旧港地区の風景

【アセアン諸国にPR】

本市にとって初めての取り組みとなった平成26年度は、ベトナム（ホーチミン市、バリア・ブンタウ省）とミャンマー（ヤンゴン市）を訪問。堺泉北港をPRし、今後の経済協力について協議しました。

ホーチミン市では、クアン人民委員会委員長にお会いしました。ホーチミン市と日本は、政府のODAによるインフラ整備（国際空港、道路）など深い関わりがあり、様々な平和的友好交流を行っています。

また、ハイテク産業の工業団地（約13ha）も日系企業と開発し、その他にも日本向けの工業団地が約360haあります。今後は、教育面、ハイテク産業面での協力を日本に期待していますとのコメントをいただきました。

巨大港湾カイメップ・チーバイ港を持つバリア・ブンタウ省では、堺泉北港のPRに加え、ニエン人民委員会副委員長と今後の経済協力について、具体的に覚書を締結する旨の意思を確認し、その内容や締結の時期等について最終段階まで協議しました。

また、バリア・ブンタウ省では、紹介ビデオやパンフレット、ホームページについても日本語版が用意されているなど、日本企業の進出を歓迎する意図が汲み取れました。

ミャンマーでは、後背圏に巨大SEZ（経済特別区）が広がるティラワ国際港をもつミャンマー港湾公社（運輸省）、ヤンゴン市開発委員会、ミャンマー商工会議所連盟を訪問し、堺泉北港をPRしました。

また、既に堺泉北港から毎年多くの中古車をミャンマー向けに輸出していることから、堺泉北港が他港に比べて優位である自動車専用バースや広大なストックヤード等について説明し、さらなる活用についてお願いするなど、今後の協力関係について確認しました。



伊藤市長とクアン委員長（ホーチミン市）



セールスの様子（ミャンマー）

【トップセールスの成果】

本市にとって初めての挑戦になった港湾トップセールスですが、今回訪問した3都市5機関において「堺泉北港」と「港湾のまち・いずみおおつ」をPRし、港湾を主軸とした協力関係について確認出来ました。

また、平成26年11月、バリア・ブンタウ省人民委員会のニエン副委員長とその一団が泉大津市を訪れ、「泉大津市とバリア・ブンタウ省における経済協力に関する覚書」の調印式を実施することができ、大きな成果をあげることが出来ました。

これは、地域資源を最大限活かした積極的な取り組みであり、未来への大きな第一歩であると考えています。



調印式の様子（ニエン副委員長と伊藤市長）

阪南4区(貝塚市)北防波堤で安全パトロールを実施しています!

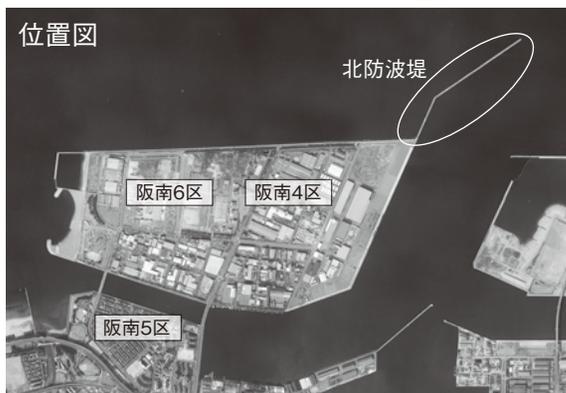
大阪府港湾局阪南港湾事務所

関係機関と連携した安全パトロールの実施

阪南4区(貝塚市)北防波堤は、阪南港において最も沖合に突き出た防波堤となっており、大物の魚も釣れることから、この防波堤のある阪南4区及び6区が「貝塚人工島」という名称で、大阪湾の釣り場としてWEBなどで紹介され多くの釣り人が訪れています。

しかしながら、この北防波堤では転落事故などが多発したため、平成11年に侵入防止柵を設置し立入禁止区域としてきましたが、侵入する釣り人が後を絶たず危険なため、貝塚警察署と協議し、平成25年12月から合同で安全パトロールを実施しています。陸上からは貝塚警察署の警察官数名と阪南港湾事務所の職員数名、海上には阪南港湾事務所の港務艇(「はごろも」及び「いずみ」)一隻が出動してきました。

平成26年10月からは、岸和田海上保安署も加わり、より体制を充実して実施しています。



当初は、船上から退去を呼びかけてもこれに応じる釣り人は少なく、陸上から防波堤の先端方面まで説得に向く必要がありました。回数を重ねた結果、現在では、船上からの呼びかけに応じ全員退去するようになりました。これは、日々の海上巡視において釣り人を発見した場合でも同様で、安全パトロールの効果が表れています。



釣り人の説得に向かう貝塚警察署員と事務所職員(5月)



退去を呼びかけたのち待機する港務艇と出口に集まる釣り人(10月)

啓発活動の実施

また、太刀魚のシーズンで釣り人の多い10月には、岸和田海上保安署が主体となり、安全パトロールに併せ北防波堤周辺において、釣り人に対しライフジャケット着用を指導する啓発活動も実施しました。

今後とも、関係機関と連携し、安全の確保に努めたいと考えております。



<岸和田海上保安署提供>

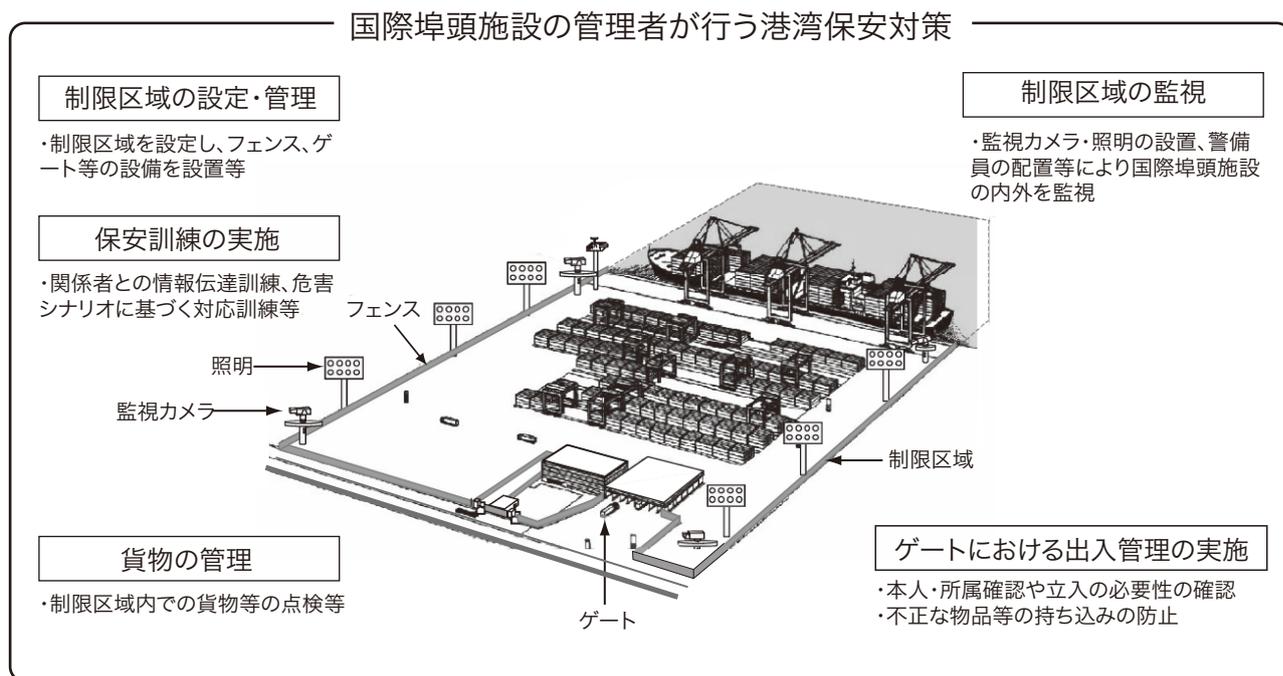
堺泉北港及び阪南港テロ対策総合訓練を実施しました

大阪府営港湾の保安対策について

堺泉北港では、年間約3万2千隻、阪南港では、年間約8千隻の国内外の船舶が入港しており、港湾における輸送機関の安全確保、港湾施設の保安の確保は、極めて重要なものとなっております。

両港におきましては、「海上における人命の安全のための国際条約(SOLAS条約)」に基づく「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」の施行に伴い、汐見2～5号岸壁をはじめ15区域22岸壁において、港湾施設の保安対策を実施しています。

保安対策として、港湾関係者以外の立入を禁止する立入制限区域に指定し、港湾施設の周囲をフェンス等で囲み、ゲートを設けて人や車両の出入管理や巡回監視などを行っていますが、万が一、テロ対応事案等が発生した場合には、大阪府港湾局だけでなく警察や海保等の各関係機関と連携し、事案に対応する必要があります。



港湾の安全・安心のために

現在、日本国内では、直接的なテロの脅威はありませんが、世界に目を向けると、アルジェリアで発生した邦人人質事件や中東における「イスラム国」の勢力拡大など国際的にテロの脅威は増しています。

このような国際テロを始めとする国際組織犯罪を未然に防止するためには、「水際対策・危機管理体制」が特に重要であることから、両港において大阪府港湾局、警察署、海上保安署、入国管理局、税関、検疫所等の行政機関と民間事業者団体が構成される保安委員会が設置されており、毎年、各機関の連携・対応状況を確認するとともに、連携強化と事案対処能力の向上を図ることを目的にテロ対策総合訓練を実施しています。

堺泉北港及び阪南港テロ対策総合訓練

今年度は、11月4日(火)に新貝塚3号岸壁及びその前面水域で阪南港テロ対策総合訓練を実施し、11月25日(火)に大浜5号岸壁及びその前面水域で堺泉北港テロ対策訓練を実施しました。

訓練の概要は、大阪府港湾局による周辺事業者等への警戒広報、警備員による周辺巡回点検、警察による岸壁警戒警備の埠頭警戒訓練、次に、巡視艇・警備艇等によるテロリスト及び支援者が乗船する不審船の追跡、挟撃による停船、制圧の海上訓練、最後に、海保、警察、入管、税関職員による容疑船への船内立入検査、容疑船乗組員への身体検査や入国審査、不審物のX線検査、テロリストの確保の陸上訓練となっています。

訓練は、巡視艇やパトカー等による大きなサイレン音を鳴らしながらの警戒警備や空砲を使用した射撃、逃走するテロリストの確保など事案対処を実践する場として参加者一人一人が真剣に取り組んだことにより、大変緊迫感のあるものとなりました。

また、阪南港では、複数のマスコミから取材を受け、テレビで放送されたことは、我々関係機関にとって、改めて港湾保安対策の重要性を認識する機会となったところです。



保安委員会委員長挨拶



訓練前整列



不審船への警告



不審船への停船命令



不審船の制圧



入国審査



X線検査



テロリスト逃走



テロリスト確保

おわりに

大阪府港湾局では、関係各機関との連携のもと保安の確保に努めてまいりますので、引き続き皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。なお、訓練に際しまして、タグボートを提供いただきました大阪府タグ事業協同組合をはじめ関係各位のご理解とご協力を賜りましたことを心よりお礼申し上げます。

「みんなで草刈り活動 苗木たちを元気に!」を開催しました

大阪府では、港湾局と環境農林水産部みどり・都市環境室、循環型社会推進室が一体となって、堺第7-3区(堺市西区築港新町)において森づくりを進めており、府民の方、企業、NPO法人などが力を合わせ、これまでに約2万2千本の苗木を植えてきました。植樹後間もない苗木は、苗木に日が当たるよう草刈り活動を行わなければ大きく育たないことから、平成26年9月27日(土)、府民の方、企業団体の方あわせて205名の皆様に参加し、3月に植樹を行った区画で草刈り活動を行いました。

毎年、植樹祭、草刈り活動に多くの企業・団体・個人の皆様の参加をいただいております。苗木が大きく育つ大きな力となっています。港湾局では企業による森づくり連絡調整会を設け、企業の皆様による共生の森づくり活動を推進していますので、参加をご希望の企業の皆様からのご連絡をお待ちしています。



第12回共生の森植樹祭の開催

平成27年3月7日(土)に第12回共生の森植樹祭を開催します。植栽規模5,000㎡、参加定員500名を予定しています。詳細は、「堺第7-3区共生の森づくり」サイト <http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/midori/kyousei.html> をご覧ください。

NTT西日本(西日本電信電話株)による植樹活動、自然体験学習の実施

平成26年10月25日(土)には、共生の森で活動されているNTT西日本によるJ山の区画(約2,000㎡)において植樹活動が行われました。植樹会は、NTT西日本の社員やご家族、関連会社の方々287名の方々が約800本の苗木を植えられました。植樹会終了後、公益社団法人大阪自然環境保全協会参画のもと、植樹して10年近くがたった木々の観察や自然体験学習を行いました。



長谷工グループによる植樹活動、木工教室の開催

平成26年10月25日(土)には、長谷工グループによる植樹活動(1,375㎡)が行われました。(株)長谷工コーポレーションをはじめグループ各社の社員や家族104名の方々が300本の苗木を植えられました。植樹活動終了後には、社員やその家族の皆様の参加による木工教室の開催やすすきの葉っぱでバッタづくりなどが行われました。



一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア(CIFER・コア)は、大学連合共通教育プログラムの一環として、大阪湾の海域環境に関する実践型の教育を展開しています。

このカリキュラムが、港湾局で実施している環境施策についての取り組みにもつながる内容であることから、その教育プログラムの一部を港湾局が協力しました。

大阪大学から西田修三教授・入江政安准教授・中谷祐介助教、大阪市立大学から矢持進教授・重松孝昌教授・遠藤徹講師、大阪府立大学から大塚耕司教授が、大阪湾の流れ・水質・生物などについて、平成26年9月2日(火)に堺泉北港湾事務所の水防事務室にて講義をされました。

■大阪湾の流動と環境

大阪湾に流れ込む黒潮分枝流や、大雨時に陸から河川に流れ込む大量の雨水の影響によって、水質は大きく変化をもたらすことがあります。

また水質が改善されても、生物の生息に適した環境の場がないと、海域環境の改善にはなりません。



■フィールドワーク



港湾局の船舶“はまでら”に乗船して、堺北泊地の5カ所と港外の1カ所で、阪大生・府大生・市大生の3チームに分かれて水質観測と採水を行いました。

採水は海面近くの上層と海底近くの下層の2カ所の海水を採取するため、海中で任意に密閉できる特殊な機材を用いて実施します。

船が完全に停止してから作業を行わないと、海中に沈めた採取機材のコードがプロペラに絡まり航行不能となってしまうので、船員と先生方が連絡を取り合いながら慎重に作業を進めました。

■データ解析

採取してきた海水を機械にかけてデータ解析を行います。

海水に含まれる化学的酸素要求量を分析して生物の生息に適した環境であるかを調べます。



たくさんの学生が、大阪湾に触れながら、環境について学ばれました。

港湾施設見学会を開催

高石港湾振興会

高石市立全7小学校の4年生を対象に、総合学習の一環として、海や港に関心を持ってもらうことを目的に高石港湾振興会が大阪府港湾局と大阪水上警察署の協力を得て、港湾施設の見学会を開催しました。

この見学会は、大阪府港湾局巡視船「はまでら」に乗船して、海から港湾施設を見学するもので、見学当日は、大阪府港湾局担当者、高石市職員からの説明を児童たちは、興味津々に聞き入っていました。

また、船上からは、中古車、木材チップ、阪九フェリー、大阪ガスLNGタンク、ガントリークレーン等の日頃見ることができない港湾施設を見学し、大満足といった感じでした。

■開催日	9月11日(木)	東羽衣小学校	4年生	75名
	9月16日(火)	羽衣小学校	4年生	96名
	9月18日(木)	加茂小学校	4年生	102名
	9月22日(月)	取石小学校	4年生	84名
	9月30日(火)	清高小学校	4年生	50名
	10月2日(木)	高陽小学校	4年生	98名
	10月10日(金)	高石小学校	4年生	45名

計 550名



岸和田港振興協会では活動の一環として、毎年、協会の会員による港湾の振興や防災に関する知識の普及等を目的とした先進事例視察を実施しています。

平成26年度は10月29日(水)に、信貴会長をはじめ協会会員、役員、事務局総勢21名で和歌山県広川町の「稲むらの火の館」、「広川町風力発電所」等の視察を行いました。

津波防災教育センター「稲むらの火の館」では、館内の津波映像シアターにて、地震が発生し、津波が到来するまでの間の心構えの映像や安政地震による津波の歴史、広村堤防建設の歴史の映像を見ました。その他、防災体験施設等の見学を行いました。

施設の見学後には、係員による防災に関する講演や、現存する広村堤防の見学、ボランティアガイドによる広村堤防の歴史等の説明も聞かせていただきました。

地域新エネルギー促進事業として導入された「広川町風力発電所」では、広川町役場の職員の方に、発電所施設建設の経緯や発電の仕組み等の説明を受け、石油も石炭も使用しないクリーンエネルギーに参加者も関心を持ち熱心に質問をしていました。

午後からは、遊覧船にて和歌浦湾を海から眺望する貴重な体験をしました。

岸和田港振興協会といたしましては、今回の先進事例視察を参考にしながら、大阪府港湾局、岸和田市その他の団体と協力し、市域の港湾振興並びに防災等に繋げていきたいと考えています。



平成26年11月2日(日)第41回「堺港まつり」を堺市堺区出島漁港「とれとれ市」に於いて開催いたしました。

当日は曇り空のなか、延べ1,800名とたくさんの方々にお越しいただきました。

堺海上保安署のご協力により、小学生以下を対象に実施した巡視艇「しぎかぜ」の1日船長体験、また参加者及び保護者の方々にも同巡視艇での体験航海を楽しんでいただきました。

来場者の皆様にも丸高渡船のご協力により堺港遊覧を実施し、沖では堺海上保安署の消防船「みのお」の放水展示や普段あまり見ることのない堺泉北港の景色を堪能していただきました。

他にも、パルーンショーや迫力のある和太鼓演舞・アクロバットショーなどで、まつりを盛り上げていただき、似顔絵コーナーでは行列が出来るなど、堺港まつりを盛大に終えることが出来ました。

ご支援、ご協力をいただきました堺市漁業協同組合連合会をはじめ、堺海上保安署や当日出演いただきました皆様、そして当日早朝よりお手伝いいただきました、堺港湾振興会会員企業の皆様に紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。



堺泉北港地元港湾振興会(堺・高石・泉大津)では、平成26年11月6日(木)～7日(金)に合同で静岡県清水港を視察いたしました。

三港湾振興会の合同での視察は、先進都市の港湾や企業を視察し、堺泉北港のより一層の発展を図る目的で行っており、今回は36名の参加により実施いたしました。

清水港は、駿河湾に面し静岡県のほぼ真ん中に位置する国際拠点港湾であり、圏域にはヤマハ、スズキをはじめ多数の世界ブランド企業が立地し、整備された高速道路網を活かしながら、順調に取扱貨物量を増加させている港湾です。

1日目は、清水港管理局から清水港の概要・港湾振興の取り組みについて説明を受けたのち、清水コンテナターミナル棟から清水港の全容を見学しました。その後、バスにて新興津埠頭へ移動し、最新鋭のスーパーガントリークレーンを見学しました。

2日目は、清水エル・エヌ・ジー株式会社袖師基地の液化天然ガス工場を見学しました。同基地では、地震対策をはじめとする防災体制や環境理念を追求しつつ、関東・甲信越地方の住民の方々まで、天然ガスを安定供給し続けていることに感動いたしました。

各振興会においては、今回の視察を参考に堺泉北港の振興と事業推進に努めてまいりたいと思います。視察に参加された方々やご協力をいただきました方々には、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。



平成26年11月9日(日)、岸和田旧港地区のカンカンベイサイドモールにおいて、阪南港港湾振興連絡協議会(大阪府、忠岡町、岸和田市、貝塚市)主催により、阪南港の活性化及び港湾振興を目的としたイベント「阪南港みなとふれあい広場」を開催しました。

岸和田カンカンベイサイドモールのロンドラ広場において実施した屋内イベントでは、阪南港港湾振興連絡協議会による阪南港のPRブースを設置するとともに、岸和田海上保安署にご協力いただき、海上保安庁に関するPRブースも設置しました。



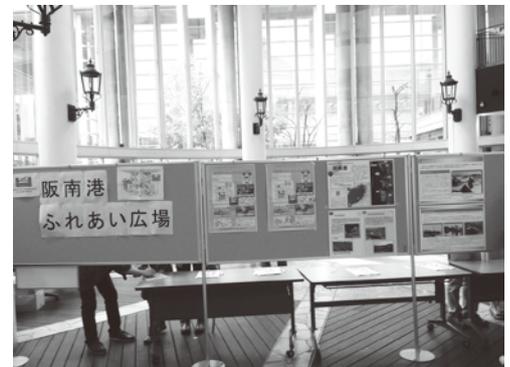
阪南港のPRブースでは、阪南港の歴史や港湾施設、さまざまな船について説明したパネルを展示しました。また、来場者に阪南港に関するクイズを出題し、正解者には、阪南港に関する素敵な記念品をプレゼントしました。クイズには、大人から子どもまで、幅広い年齢層の方々にご参加いただき、阪南港や港湾についての知識を深めていただきました。

また、海上保安庁のPRブースでは、東日本大震災のときの、海上保安庁による救援活動の様子を写したパネル展示や動画放映を行うことで、普段なかなか見ることのできない海上保安庁の仕事について知っていただくとともに、海上保安官の制服、潜水服を試着して機動救難士と一緒に記念写真が撮影できる企画を実施し、特に親子連れでご来場いただいた方々に、大変好評を得ました。

ロンドラ広場の中央部では、日本近海の家図を3Dメガネで立体的に体感してもらった展示も行いました。普段はなかなか海図にふれあう機会がない人にとっては、貴重な体験に満足いただけた様子で、来場者は3Dメガネを着用し、しばしば海図に見入っていました。また、海上保安庁のイメージキャラクターである「うみまるくん」が会場を訪れ、小さな子供たちに人気を博していました。

当日はあいにくの雨天であったため、岸和田旧港内で当初予定していた、機動救難士による海難救助デモンストレーションや、キッズボート体験乗船会が中止となってしまいましたが、屋内イベントについては、岸和田海上保安署や、カンカンベイサイドモール関係者の皆様のご協力もあり、盛況のうちに、事故なく無事に終了することができました。

当協議会においては、地元の方々に海と港に親んでもらえるよう、阪南港の活性化及び港湾振興を目的としたイベントを、今後も引き続き開催していきたいと考えております。



■2014年11月11日(火)大阪府港湾局訪問

グリーンアワード財団(オランダ)

理事長 ヤン・フランセン 氏(Mr.Jan Fransen)

職員(認証担当) 篠原 啓太 氏

このたび、オランダよりグリーンアワード財団が、大阪府港湾局を訪問されました。

グリーンアワード財団は、1994年にオランダ・ロッテルダム市港湾局及びオランダ運輸省によって設立され、独立の非営利組織として、クオリティシッピング(安全かつ環境に配慮した船舶)への認証を行うための審査・提供にかかる活動や、同基準を満たした船舶に対して優遇措置(グリーンアワード・プログラム)を与えるよう、港湾管理者に対し協力を求める啓発活動などを行っています。

日本国内の主要な港湾を来訪される中で、大型タンカーやLNG船の入港がある重要な港湾のうちの一つとして、堺泉北港に来訪されました。

今回の来日では、11月4日に日本で初めて北九州港がLNG船を対象にグリーンアワード・プログラムに参加されたことについて、ご紹介がありました。また、同財団の環境・安全活動等に関する事業活動の報告、港湾管理者としての優遇制度の導入推進等について普及啓発されました。



ようこそ大阪府営港湾へ ～初入港のご紹介～

大阪府港湾局経営振興課経営振興グループ

大阪府港湾局では、府営港湾に初めて入港する船舶に対し、大阪府港湾協会や地元市港湾振興会と協力して、初入港記念楯及び地元市からの記念品の贈呈を行っています。

LNG VENUS (136,710総トン)

平成26年12月15日(月)

堺泉北港大阪ガス第2工場LNG栈橋

LNG専用船



在阪国家機関等に対する要望活動

府営港湾の整備促進のために、関係国家機関等に対して、下記のとおり要望活動を行いました。

要望先と要望事項については下表のとおり

実施日	要望事項	要望先
平成26年10月30日(木)	府営港湾の整備、維持管理等に関する要望	大阪府知事
平成26年10月30日(木)	大和川へのゴミの不法投棄取締り強化及び河川敷のゴミの除去清掃について	近畿地方整備局長 近畿地方整備局 大和川河川事務所長
平成26年11月 7日(金)	体験航海行事のための巡視船派遣の継続	第五管区海上保安本部長 大阪海上保安監部長
平成26年12月 1日(月)	深日港の「みなとオアシス」登録について	近畿地方整備局長
平成26年12月 8日(月)	深日港における航路再開に向けた支援	近畿運輸局長